



TITLE:

越境により研究者の未来が劈かれるとき

AUTHOR(S):

河本, 大知; 鮎川, 慧; 大澤, 由実; 仲野, 安紗; 藤枝, 絢子; 渡邊, 皓子

CITATION:

河本, 大知 ...[et al]. 越境により研究者の未来が劈かれるとき. 2016: P_19.

ISSUE DATE:

2016-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/234538>

RIGHT:

越境により研究者の未来が劈かれるとき

京都大学 学術研究支援室 A2D^(※)

(※A2D = Analytics, Analysis, and Design Team) (河本大知 (リーダー)、鮎川、大澤、仲野、藤枝、渡邊)

課題

京都大学の研究者を取り巻く研究者環境を的確に把握し、個々の立場を越えた俯瞰的な観点から研究力強化に向けた施策立案に資する提案が必要。

現在

大学研究力強化施策立案に向けた分析業務に関して、専門家チーム (A2D) を中核とする横断的組織間連携 (越境) で、大学の諸課題解決にあたっている。

ミッション

- 研究者環境改善を通じた京都大学の研究力強化に向けた重点研究開発戦略/国際戦略施策立案を支援する。
- 分析と組織デザインの力により、広く社会のコンテクストにおいて京都大学を再定義し、その文化と芽を持続的に育む仕組みを創出・提案・実装する。

手法

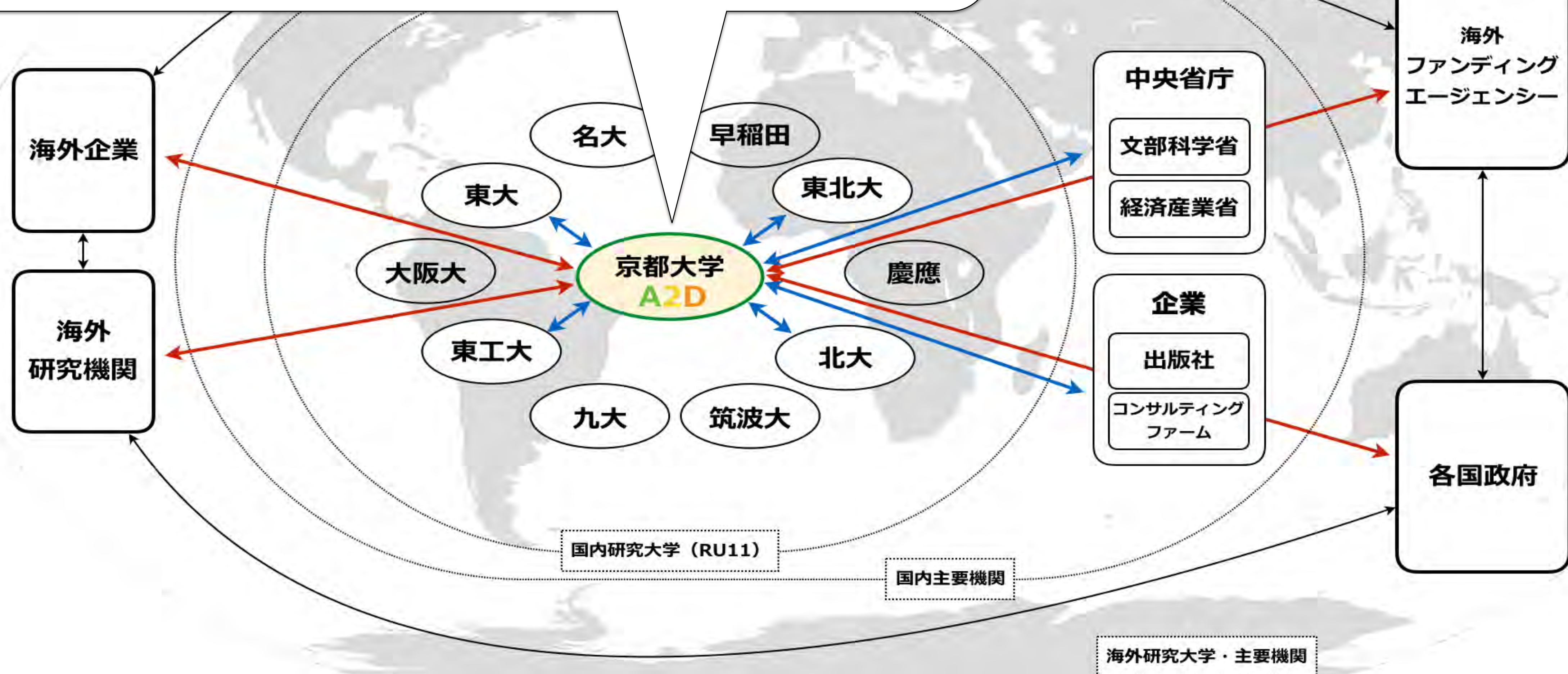
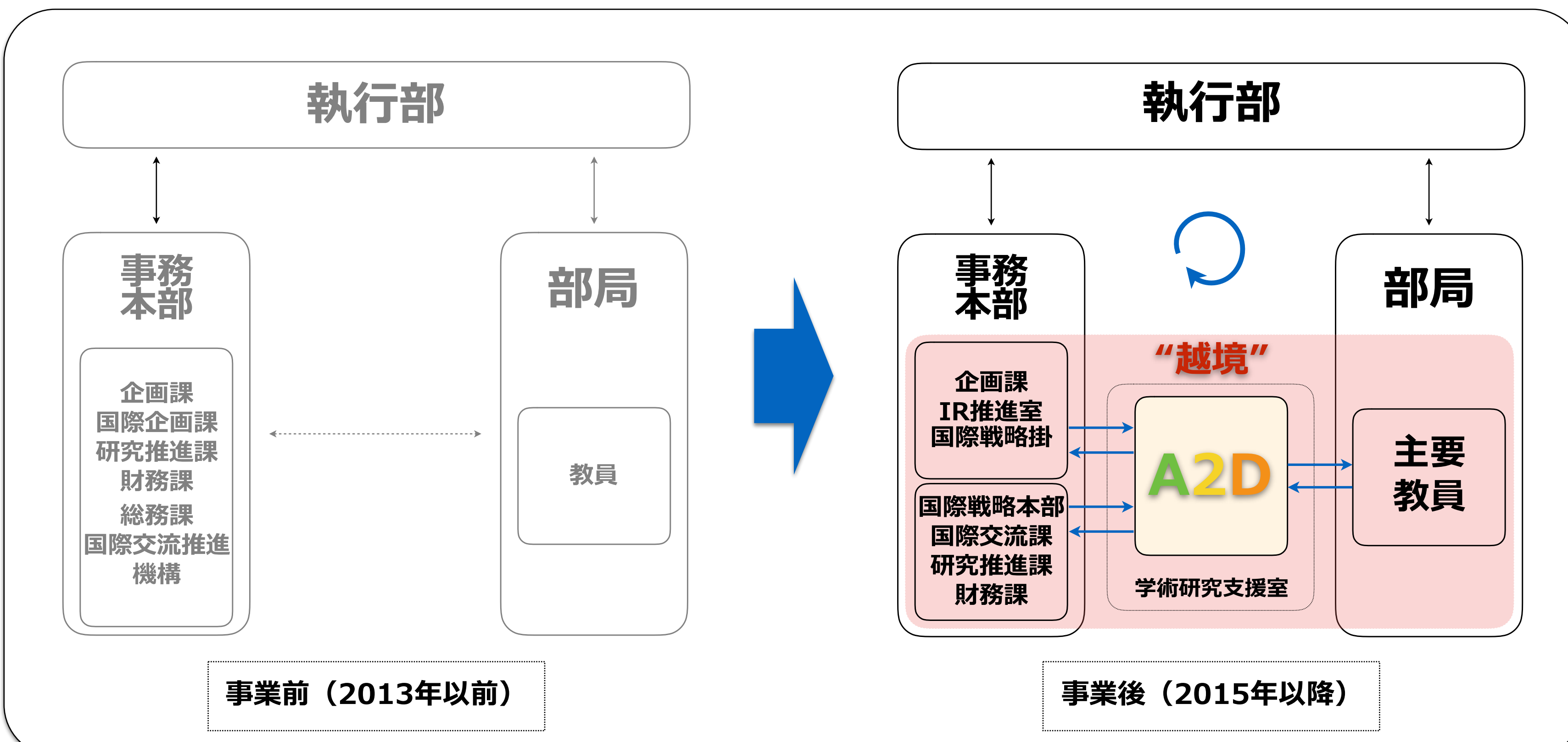
- 分析・組織デザインによる提案ならびに実装・協働ネットワークの拡充

活動

- 研究力強化に向けた“普遍的 (ユニバーサル) 分析・組織デザイン基盤”の構築、それに基づく (能動的) 調査・提案

経過ならびに結果

- 本プロジェクトは総合大学の研究者環境改善を目標とする長期プロジェクトであるが、付随する短期・中期プロジェクトでは、形の大小はあれど教員を巻き込むネットワーク形成を実現し、個々の業務は研究力強化に向けた施策立案へ資するものとして設計している。
- ダイナミックなトップダウン分析を基軸とした研究力強化施策立案へ資する基盤整備の試みは、学内外の研究者の評価も高く、関心はアカデミアのみに止まらない。我々が構築を目指す基盤は、この意味で“普遍的”なもので、研究者環境の抜本的な改善に資するものとして期待している。



Wikimedia Commons URL: <https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/0/03/BlankMap-World6.svg>

京都大学内での業務概要

- 執行部・主要教員の施策立案に資する提案 (企画課・研究推進課との連携業務)
- 各部局の動向に関する分析に基づく予算配分の提案 (財務課との連携業務)
- 国際戦略に資するデータ・分析結果の提供、提案。(企画課・国際戦略本部との連携業務)
- 部局からの要望に応じた、書誌情報を含むデータ提供 (部局主要教員との連携業務)
- 国際学会DSIR (Data Science and Institutional Research) 2015,2016 スペシャルセッション企画・運営

国内主要機関・中央省庁との業務概要

- エルゼビア・トムソンロイター主催主要国際会議での講演・パネル登壇
- 中央省庁部会での講演・討議
- 共通の課題に対する他大学URAないしIRオフィスとの協働

海外主要機関・ファンディングエージェンシー等との業務概要

- 海外URA協議会 (米国、ASEAN地域、オセアニア等) での講演
- 海外研究大学部局長会議での講演・討議
- 海外研究大学・研究機関・ファンディングエージェンシー・その他海外機関との協働ネットワークの確立

Elsevier社主催 国際会議 Asia Pacific Research Intelligence Conference 2016@慶應大学 での講演「Research Potential」の様子